

科目名 (Eng)		有機化学Ⅱ (Organic Chemistry II)																
担当教員		梅澤 洋史																
対象学年等	学科・専攻	物質工学科	学年	4	授業期間	通年	区分	必修	単位数	2	時間数	60	分野	専門	形態	A	学修単位科目	
	目標基準との対応	福島高専の教育目標との対応：(B-1) 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：2) JABEE基準I(1)との対応：(c)																
授業の概要と方針	3年次の有機化学Iで学習した有機化合物の分子構造と性質および反応性との関係をはロゲン化アルキル、アルコール、フェノール、エーテル、カルボン酸とその誘導体、ならびにアミンに展開する。																	
到達目標	①種々の有機化合物の中間体として重要なハロゲン化アルキルの化学が理解できる。 ②アルコール、フェノール、エーテルの構造がわかり、合成法と反応を理解できる。 ③種々のカルボニル化合物の分子構造がわかり、合成法と反応を理解できる。 ④有機反応の反応機構を論理的に考察できる。																	
授業計画																		
前期	週	授業項目	理解すべき内容										事前学習					
	1	ハロゲン化アルキル (1)	分子構造と命名法										教科書p207～p227の該当箇所を読んでおくこと					
2	ハロゲン化アルキル (2)	ハロゲン化アルキルの合成、Grignard試薬																
3	ハロゲン化アルキル (3)	S _N 1、S _N 2反応のメカニズム																
4	ハロゲン化アルキル (4)	E1、E2反応のメカニズム																
5	アルコール、フェノール、エーテル (1)	分子構造と命名法										教科書p239～p262の該当箇所を読んでおくこと						
6	アルコール、フェノール、エーテル (2)	アルコールの性質																
7	前期中間試験																	
8	中間試験解説と構造と結合 (4)	第1週から第7週までの学習事項の復習																
9	アルコール、フェノール、エーテル (3)	アルコールの合成と反応										教科書p272～p297の該当箇所を読んでおくこと						
10	アルコール、フェノール、エーテル (4)	エーテルの合成と反応																
11	アルコール、フェノール、エーテル (5)	環状エーテルとチオール、スルフィドの性質																
12	アルデヒドとケトン (1)	分子構造と命名法																
13	アルデヒドとケトン (2)	アルデヒドとケトンの合成										教科書p308～p340の該当箇所を読んでおくこと						
14	アルデヒドとケトン (3)	水、アルコールおよびアミンとの反応																
15	前期期末試験の解説	第9週から第14週までの学習事項の復習																
16	アルデヒドとケトン (4)	Grignard試薬との反応																
17	カルボン酸とその誘導体 (1)	分子構造と命名法										教科書p356～p376の該当箇所を読んでおくこと						
18	カルボン酸とその誘導体 (2)	カルボン酸の性質と合成法																
19	カルボン酸とその誘導体 (3)	求核アシル置換、カルボン酸、酸ハロゲン化物の反応																
20	カルボン酸とその誘導体 (4)	酸無水物、エステル、アミド、ニトリルの反応																
21	カルボニル化合物のα置換反応と縮合反応(1)	ケト-エノール互変異性、αハロゲン化										教科書p389～p407の該当箇所を読んでおくこと						
22	後期中間試験																	
23	後期中間試験の解説	第16週から第22週までの学習事項の復習																
24	カルボニル化合物のα置換反応と縮合反応(2)	エノラートイオンの反応性とアルキル化																
25	カルボニル化合物のα置換反応と縮合反応(3)	アルドール反応、Claisen縮合反応										教科書p389～p407の該当箇所を読んでおくこと						
26	アミン (1)	分子構造と命名法																
27	アミン (3)	アミンの構造と性質																
28	アミン (3)	アミンの合成法																
29	アミン (4)	アミンの反応										教科書p389～p407の該当箇所を読んでおくこと						
30	後期末試験の解説	第24週から第29週までの学習事項の復習																
試験について	中間試験は授業時間中に50分間の試験を実施する。期末試験は50分間の試験を実施する																	
評価方法	定期試験の成績を70%、小テストや課題の総点を30%として総合的に評価する。																	
教科書	マクマリー有機化学概説、マクマリー、伊東、児玉訳、東京化学同人																	
参考書	ハート基礎有機化学、ハート、秋葉、奥彬訳、倍風館 初めて学ぶ大学の有機化学、深澤義正、笛吹修治、化学同人																	
関連科目	有機化学I、生化学I、生化学II、有機化学演習、有機合成化学、生物有機化学、高分子化学																	
履修上の注意	有機化学Iの理解を前提に授業を進めるので理解していないところはしっかり復習しておくこと。定期的に小テストを実施するので練習問題を各自解いておくこと。																	